書評

Journal of Occupational Science (2020) 第 27 巻 1 号

編集者の Hocking（2020a）によれば，本号は社会的に許容されない作業 3 編，精神障害者の社会的相互作用と社会参加に関する 3 編，人々の作業に影響を与える社会的プロセスを議論した 3 編，計 11 編の論文を掲載する．

Sy ら（2020）は，フィリピンにおける薬物摂取を作業形態，機能，意味の観点から分析した．薬物使用は，フィリピンの社会的規範，価値観，道徳的基準に準拠している可能性を指摘し，作業的公正の視点からこの問題を論じた．Twinley ら（2020）は，作業科学が学際的価値を生み出すように，包括的な作業の見方を導入する重要性を訴える．「作業の暗い側面」から，先行研究を批判している．Gish ら（2020）は，ゲイ男性の覚せい剤使用に関する文献レビューを行い，許容されない作業の言外の意味に着目している．ヘルスプロモーションとリスク回避に根ざした視点が，その作業に誤った解釈をもたらす可能性を示唆した．一方で Morrison ら（2020）は，チリの政治的・社会文化的状況に起因する差別や排除のために，子育ての作業から排除されている 2 組の同性カップルの経験を探求した．

続いて，Eklund ら（2020）は，作業と社会的交流の各側面はウェルビーイングとどのように関連するのか質問紙調査を行った．スウェーデンの支援住宅に住む重度の精神障害者 155 名および一般住宅に住む比較群 111 名がこの研究に参加した．活動レベルや作業バランスよりも，日常の作業への満足度の方が主観的ウェルビーイングに良好な影響をもたらすことを明らかにした．Fox（2020）は，精神疾患を持つ人々が，青年期に最初に発症した後の社会参加の変化について共同エスノグラフィーを用いて調査した．社会と個人との複雑な相互作用に言及した．Tomar ら（2020）のエスノグラフィー研究では，重度の精神障害者 18 名とサービス提供者 16 名が研究参加者となり，作業エンゲージメントに影響する社会的プロセスを探索した．道徳的経済学の枠組みを用い，作業を有形資産として概念化し，階層と制度をつくり維持する作業の機能を強調した．

最後に， Huot ら（2020）は，英語を第一言語としないカナダへの移民の作業に及ぼす個人と社会の影響について考察した．言語はコミュニケーションの手段を超えて，必要で行いたい作業に結び付くことの障壁になりうることを指摘した．Marshall ら（2020）は，退屈とホームレスに関するレビューを行った．退屈はホームレスの経験の特徴であり，環境が退屈の決定要因であることを示した．Jansson（2020）は，賃金労働の意味とベーシックインカム導入がもたらす可能性を考察した．インクルージョンや作業的に公正な社会の実現に向けて，あらゆる手法が議論され発展されるべきであると主張した．

以上，本号の 11 編の論文では，個人と社会が複雑に絡み合いながら人間の作業を規定するさまが探求，記述されている．社会的に許容されない作業を作業科学の議論に載せていることは，作業科学の更なる発展を感じさせるものである．

髙島理沙（北海道大学）

文献（引用順）

Hocking, C. (2020a). A Tribute to Dr Ann Wilcock. Journal of Occupational Science, 27(1), 1-4.

Hocking, C., & Townsend, L. (2020b). Celebrating Ann Wilcock: A call to action. Journal of Occupational Science, 27(1), 6-11.

Sy, M. P., Bontje, P., Ohshima, N., & Kiepek, N. (2020). Articulating the form, function, and meaning of drug using in the Philippines from the lens of morality and work ethics. Journal of Occupational Science, 27(1), 12-21.

Twinley, R., & Castro de Jong, D. (2020). Commentary on: Sy, Bontje, Ohshima & Kiepek. Articulating the form, function, and meaning of drug using in the Philippines from the lens of morality and work ethics. Journal of Occupational Science, 27(1), 22-25.

Gish, A., Kiepek, N., & Beagan, B. (2020). Methamphetamine use among gay men: An interpretive review of a non-sanctioned occupation. Journal of Occupational Science, 27(1), 26-38.

Morrison, R., Araya, L., Valle, J. D., Vidal, V., & Silva, K. (2020). Occupational apartheid and human rights: Narratives of Chilean same-sex couples who want to be parents. *Journal of Occupational Science*, *27*(1), 39-53.

Eklund, M., & Tjörnstrand, C. (2020). Associations between occupational and social interaction factors and well-being among people with psychiatric disabilities living in supported housing in Sweden. *Journal of Occupational Science*, *27*(1), 54-68.

Fox, V. (2020). An exploration of social participation for young adults following a first psychotic episode. *Journal of Occupational Science*, *27*(1), 69-81.

Tomar, N., & Bailliard, A. L. (2020). Understanding the moral economics of occupational engagement. *Journal of Occupational Science*, *27*(1), 82-94.

Huot, S., Cao, A., Kim, J., Shajari, M., & Zimonjic, T. (2020). The power of language: Exploring the relationship between linguistic capital and occupation for immigrants to Canada. *Journal of Occupational Science*, *27*(1), 95-106.

Marshall, C. A., Roy, L., Becker, A., Nguyen, M., Barbic, S., Tjörnstrand, C., ... & Wickett, S. (2020). Boredom and homelessness: A scoping review. *Journal of Occupational Science*, *27*(1), 107-124.

Jansson, I. (2020). Occupation and basic income through the lens of Arendt's vita activa. *Journal of Occupational Science*, *27*(1), 125-137.

Journal of Occupational Science(2020)　第 27 巻　2 号

2020 年発行の JOS27 巻 2 号は，人の作業がどのように意味づけられ，社会や文化とどのような関わりをもっているのかを再考することをテーマとした 10 編の論文が掲載されている.編集者の Hocking（2020）によると，作業の複雑性や作業への適合性，強化的側面，作業

の変化など既存の作業に関する概念を見直すきっかけとなる論文が採用されている.具体的には，親としての日常的な作業を再考することや，原住民の社会的・感情的経験に関わる文化的習慣の探究，若年成人男性ロックミュージシャンの作業パターンと同一性など，作業の経験をどのように認識や理解するかといった内容が含まれている.本書評では代表的な４つを以下に紹介する.

Sethi（2020）は，作業科学では親業を親子の相互作用に対する双方向性のアプローチとして認識してきたが，この概念では家族の信念や価値観，親業という作業に対する幾多の社会的影響や親の文化的世界観に関わる複雑さを捉えることが困難であると指摘した.母親の役割が世話人，養育者，教育者，保護者，学習者と言った多様で相互に関わりのある役割により構成されていることを明らかとし，一つの作業や共作業として捉えるのではなく多様な作業を網羅する関係役割として捉えることの必要性を説いた.

Gibson ら（2020）は，アボリジニの長老と老人の社会的，感情的 Well being の経験に焦点を当て，長老と老人は家族，コミュニティ，国の文化的 Well being が継続するために必要不可欠な存在であることを明らかにした.社会的，感情的 Well being の枠組みはアボリジニの長老と老人の文化的慣習を論じるための重んずる基盤を提供し，探究に確かな根拠をもたらす文化的 Domain を与えると主張した.

Booth ら（2020）らは，高齢者の余暇への積極的参加を促進することの重要性に着目し，余暇として作業の利点を理解するために，ラインダンスに参加している高齢者がどのように作業を認識しているのかを明らかにした.ラインダンスへの参加は，退職後の意味のある作業の機会を提供し，身体的健康，気分，認知，スピリチュアリティに肯定的な結果をもたらしたと報告し，これまでの余暇参加のエビデンスを強化した.

Dallman ら（2019）は，作業科学における affectus と emotion（どちらも感情と翻訳される）の概念の調査研究を行い，学識のレビューを報告した.この２つの概念の間にある，今後の研究を必要とするいくつかの違いを特定し，作業参加をしている間の affectus と emotion のプロセス, emotional の記述をどう解釈するかの検討, emotion の機能的な役割の特定が必要であると説いた.

ここでは４つの論文を紹介したが，本号では他にも既存の概念を見直すなど新たな発見を私たちに提供している論文が多く掲載されている.作業の捉え方を発展させるために一読の価値がある論文ばかりであった.

馬場博規（磐田市立総合病院），小田原悦子（フリーランス）

文献（引用順）

Chetna, S（2020）. Mothering as a relational role: Re-evaluating everyday parenting occupations. *Journal of Occupational Science.27 (2), 158-169*

Gibson, C., Dugdeon, P. & Crockett,J.（2020）.Listen, look & learn: Exploring cultural obligations of Elders and older Aboriginal people. *Journal of Occupational Science.27 (2),*

193-203
Owen-Booth, B. & Lewis, E. (2020). An exploratory study of older persons' perceptions of engaging in line dancing classes. *Journal of Occupational Science, 27(2), 216-221*
Lundgren, A. S., Atler, K. & Nilsson, I. (2020). Negotiating occupation: How older people make sense of the concept of "occupation". *Journal of Occupational Science. 27 (2), 236-250*

Journal of Occupational Science(2020) 第 27 巻 3 号

JOS27 巻 3 号は社会と社会的課題の間に起こった問題が，個人として，集団的存在としての人々の作業的生活にどのように影響し，されるかを論ずる 8 編の論文を取り上げた．編集者 Rudman, Simaan & Nayar（2020）によると，本号のテーマは，作業科学が興味を持つ社会的・政治的現象である社会問題（植民地，移民に関わる不公正など）が議論された 2019 年 New York で開催された Study of Social Problems にインスパイアされたものであり，批判的視点で社会と人々の日常の作業を検証している．以下に紹介する．

Leadley ら（2020）は，貧困，健康，作業の関係をテーマに，質的ケーススタディーを使って，貧困と子供の作業参加のパターンを探った．オーストラリアで収取したデータから，貧困は子供の生活全般，習慣，役割，家族ルーチンの崩壊，つまり，作業的剥奪に至ることを指摘した．

Gonçalves & Malfitano（2020）は Brazil の若者の参加型ワークショップを使った質的研究により，スラムに関するスティグマが若者たちの日常生活と都会の移動に深いかかわりがあること，それを克服することの重要性を指摘した．

Peter & Polgar (2020) はクリティカルナラティブ分析を使い，社会政治的動向が持つカナダ，オンタリオ在住の社会扶助受給者の生活経験への影響を研究した．社会扶助受給者が日常生活における選択権に恵まれない，作業的不公正の状態にあることを指摘した．

Mayne-Davis, Wilson & Lowrie (2020) は，難民，亡命希望者に関するオーストラリアの新聞記事を対象にクリティカル言説分析を行い，彼らの作業の可能性を限定し，社会から排除する意識を見出し，その是正を訴えた．

Delaisse & Huot (2020)は，移民の作業を世界規模で理解するため，JOS に掲載された文献を文献レビューし，使用された理論における一貫性の欠如を指摘し，移民問題は今後も継続する課題であることから改善の重要性を指摘した．

Holthe, Halvorsrud & Lund (2020)は，支援技術を利用する高齢者の視点をクリティカルに探るために，個別面接，ダイアローグカフェ，環境センサーによる介入，フォーカスグループディスカッションを使って，発言をテーマ分析した．高齢者が持つ，参加意識と環境センサーへの感情を見出した．従来の研究と異なり高齢者を利益関係者 stakeholder としてクリティカルにとらえる視点を提言し，従来の高齢者蔑視，障害者差別の固定概念への

挑戦の可能性を指摘した.

Davis & Greenstein (2020) は長年の社会的課題であるジェンダーの不平等をテーマに, 家事の社会的経済的文脈を理解するために, 2003-2015 年の American Time Use Study のデータを使って, 大不況の前・中・後の家事遂行, 雇用機会と政策とのかかわりを探った. 家事が依然としてジェンダー化された作業であること, 懸賞の必要を提言した.

小田原悦子（フリーランス）

Reference

Davis, S. N., & Greenstein, T. N. (2020). Household and work in their economic context State-level variations in gendered housework performance before, during, and after the great recession. *Journal of Occupational Science,* 27(3) 390-404.

RDeaisse, A-C., & Huot, S. (2020). Using theory to inform understandings of occupation in a migration context. *Journal of Occupational Science*, 27 (3)359-375.

Gonçalves, M. V., & Malfitano, A. P. S. (2020). Brazilian youth experiencing poverty: Everyday life in the favela. *Journal of Occupational Science* ,27(3)311-326.

Holthe, T., & Halvorsrud, L., & Lund, A. (2020). A critical occupational perspective on use engagement of older adults in an assisted living facility in technology research over three years. *Journal of Occupational Science,* 27(3)376-389.

Leadley, S., Hocking,c., & Jones, M.(2020). The ways poverty influences a tamaiti/ child's patterns of participation. *Journal of Occupational Science*,27(3)297-310.

Nedra, P., & Polgar. J.M. (2020). Making occupation possible? Critical narrative analysis of social assistance in Ontario, Canada. *Journal of Occupational Science*, 27 (3)327-341.

Mayne-Davis, J., Wilson, J., & Lowrie, D. (2020). Refugees and asylum seekers in Australian print media: A critical discourse analysis. *Journal of Occupational Science*, 27 (3)342-358.

Rudman, D. L., Simaan, J., & Nayar, S. (2020). Special issue: Illuminating occupations at the heart of social problems. Journal of Occupational Science 27 (3) 289-293.

Ryan, A., Gilroy, J., & Gibson, C. (2020). #Changethedate: Advocacy as an on-line and decolonizing occupation. *Journal of Occupational Science*, 27(3) 405-416.

Journal of Occupational Science(2020) 第 27 巻，第 4 号

Journal of Occupational Science 27巻4号には，６編の論文が掲載されている.本書評は６編すべてを紹介する.

最初の論文は,2019年のRuth Zemke Lecture に選出されたRoyeen(2020) のメタエモーションについての論文である.ここでは,ブラックライブズマター等の抗議運動を取り巻く高まった感情を踏まえて,作業のメタエモーション（意味のある作業をしているときの感

情や気持ちを対象にした感情や気持ち）に焦点を当てている.編集者のHockingによると,アメリカにおける人種差別への抗議運動であるブラックライブズマターは,近年の新型コロナ感染症蔓延下の様々な制限が起こす不公正に対する,集団的ないらだちの顕著な例である.Royeen(2020)は,メタエモーションの定義,現在までの動向を論じ，内省的プロセスとして検討する.このメタエモーションの洞察を踏まえ,本号の各論文は,意味ある作業と人々の介入,意味ある作業参加経験への環境の影響を論ずる.まずは，増加する外国人や少数民族の受刑者,大学在学中に性的暴行を受けた女性のように，脆弱な生活環境にある人々の作業を議論した論文である.

Croux(2020)らは,刑務所内の外国籍や少数民族の受刑者のために公式に準備された作業（刑務所活動）への参加に関する36論文のスコーピングレビューを行った.これらの研究では，外国人の参加よりも少数民族の参加に焦点が当てられていることが明らかとなった.また,それらの作業は,医療や治療プログラムに関するものが大多数を占めていることがわかった.さらに,囚人へ作業を提供する際の文化的多様性の認識と配慮の重要性が示唆された.

Stewartsら(2020)は,性的暴行が作業的生活に与える影響に焦点を当てた.ナラティブ探索の結果,この研究に参加したカナダ人女性は,大学在学中の性的暴行後に日常生活で突然の混乱を経験し,何気ない作業を行うにも意図的な努力が必要であるが，自分の人生を意図的に再構築しようとしていた.

続いて,教育環境の作業経験への影響について,Cabatanら(2020)は,フィリピン人の作業療法教育者における作業適応について現象学的アプローチを通して分析を行った.その結果,彼らの置かれた状況は,作業要求に応えるための挑戦的な状況となり,その作業適応は,新しいあるいは創造的な方法で考え,実行し,反応することで，新しい自己とアイデンティティーの感覚をもたらすものであることが明らかとなった.

他に，作業選択とストレスと作業に関する興味深い２論文を紹介する.

Kolneら(2020)は,障害のある子供や若者を科学・技術・数学学習の教育環境へ導くプログラム（STEM）とその介入の影響に関するシステマティックレビューを報告する.その結果,障害ある人々をSTEMへと導くことを成功させるには彼らをこれらの作業選択から遠ざけている構造的問題により目を向けることの必要性が示唆された.

Hernandezら(2020)は,作業バランスをいかに成し遂げるか,という点について長期にわたる議論を展開した.Wilcock(2006)の“strenuous occupation（ストレスの多い作業)”の概念を用い,生理学的活性を変化させる作業の正確な説明を提供する.

髙木　信也（紘仁病院），小田原悦子（フリーランス）

文献（引用順）

Royeen. C. B. (2020). Meta-emotion of Occupation with Wissen (MeOW): Feeling a bout feeling while doingwith meaning. *Journal of Occupational Science*,27(4) 46

0-473.

Croux, F., Brosens, D., Donder, L D., Claes, B., & Vandevelde, S.(2020). Foreign n ational and ethnic minority prisoners' participation in formally organized occup ations in prisons: A scoping review. *Journal of Occupational Science*,27(4) 474-4 91.

Stewart, K. E., Mont, J. D., Charise, A., & Polatajko, H. J. (2020). Life irrupted: A narrative exploration of the occupational lives of women who experienced se xual assault while at university. *Journal of Occupational Science*,27(4) 492-509.

Cabatan, M. C. C., Grajo, L. C., & Sana, E. A. (2020). Occupational adaptation as a lived experience: The case of Filipino occupational therapy academic educ ators The contribution of charity shop volunteering to a positive experience of ageing. *Journal of Occupational Science*,27(4) 510-524.

Kolne, K., & Lindsay, S., (2020). A systematic review of programs and interventio ns for increasing the interest and participation of children and youth with dis abilities in STEM education or careers. *Journal of Occupational Science*,27(4) 5 25-546.

Hernandez, R., Vidmar. A. & Pyatak, E. A. (2020). Lifestyle balance, restful and s trenuous occupations, and physiological activation. *Journal of Occupational Science*,27(4) 547-562.